

II 上水道事業

水道事業

1 水道事業の現状と課題

1 水需要の動向

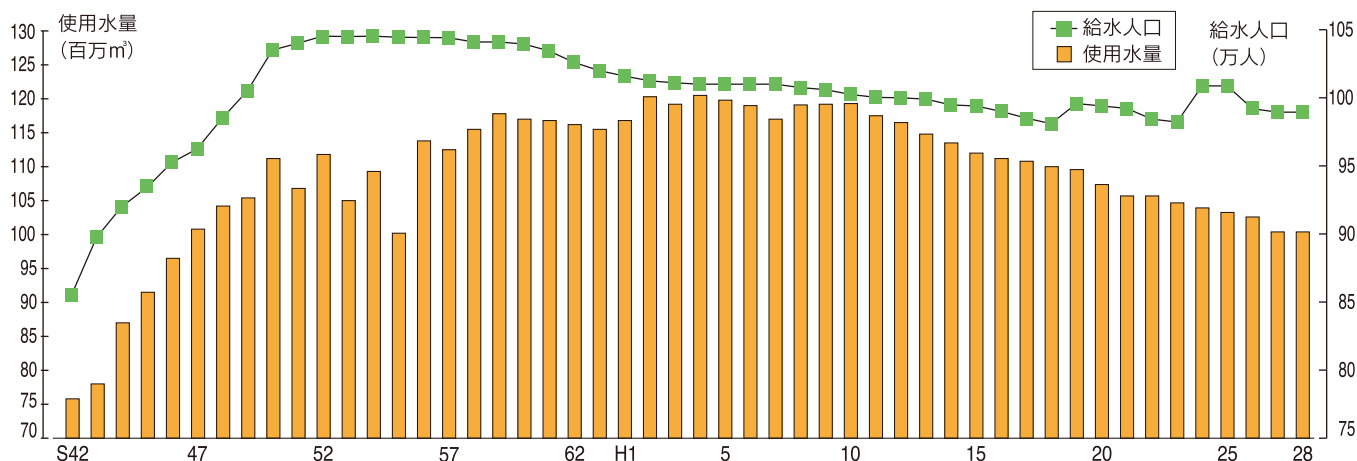
本市の水需要は、経済の高度成長と五市合併以後の百万都市としての都市基盤整備等とがあいまって、昭和40年代までは急速な伸びを示してきた。

しかし、昭和48年の第1次石油ショック以降の景気停滞や昭和53年及び57年の異常渇水による給水制限等の影響から、その伸びは鈍化し、昭和60年以降は産業構造の変化による構造不況から減少傾向となった。

平成時代に入ってから、バブル景気により一時的に水需要

は上昇し、平成4年には過去最高の使用水量を記録したものの、その後、バブルの崩壊による経済不況等により、再び減少傾向に転じていた。平成8年には水需要も回復し、使用水量が4年振りに前年度を上回り、その後は横ばいで推移していたが、平成11年度からは、少子高齢化の進展や大口利用者の地下水利用、節水機器の普及により、使用水量は減少傾向にある。

年度別給水人口及び使用水量の推移



※平成19年10月に芦屋町、平成24年10月に水巻町の水道事業を統合

2 課題と今後の対応

上下水道局は平成28年4月、5年間（平成28～32年度）の経営計画である「北九州市上下水道事業中期経営計画」を策定した。基本理念は、「お客さまに信頼される水道」と「水めぐる“住みよいまち”をめざして」としている。

上下水道事業においては、水需要の減少や更新需要の増加が予測されるなど、厳しい経営環境が見込まれている。

そこで、上下水道を取り巻く6つの課題に的確に対応するため、15施策41事業を実施し、さらなる経費削減や増収対策に取り組むことで、経営目標である「安全・安心で質の高いサービスを提供し、現行料金を維持する」こととしている。

今後は、平成24年度の上下水道局発足を機に、上下水道事業統合による効果を活かしながら、より一層、安全・安心で誰からも信頼される上下水道を目指していく。



北九州市上下水道事業中期経営計画